

安全・安心・快適な避難所生活を確保するため、  
さまざまな工夫を図りましょう

## みんなで共同して作業をしましょう

阪神淡路大震災や新潟中越地震などの過去の災害発生時の経験では、男性は早い段階で職場へ復帰する一方、不便な生活環境の下での家事や育児などの家庭的責任に対する負担が、女性に集中してしまいました。このような事態がおこらないよう、避難所内外での作業をみんなで共同することが重要です。具体的には、次のような作業が考えられます。

- 食事の準備や片づけ
- 物資の配布等
- 共有スペースやトイレの掃除
- ゴミの処理
- 行政との連絡
- 防犯(見回り)
- イベントの企画及び開催
- 家の後片づけなどの復旧作業 など

みんなで作業を共同することで、被災者がお互いの活動を評価し、尊重しあえるようになります。

## 男女のニーズの違いに的確な対応をしましょう

刻々と変化しつつある状況に柔軟に対応していくために、常に被災者のニーズを把握するよう努めましょう。

避難所の運営のあり方を決める際にも、被災者の声を幅広く聞き入れることができるような工夫をしましょう。

- 避難所運営には、男性と女性の責任者を配置しましょう。
- 生活者の視点に立ったニーズが把握できるよう女性の意見を積極的に聞きましょう。
- 避難所生活や生活再建などの問題でストレスを抱えた人々のために、避難所内に各種相談窓口や意見箱を設置しましょう。

- 被災者が求める情報が正確に、避難所のすべての人にわかりやすく伝わるよう、伝達方法を工夫しましょう。特に、移動が困難な人や視覚・聴覚障がい者の人などに対する配慮をしましょう。
- 女性が日頃から培ってきた地域の人的ネットワークやご近所づきあいなどの地域コミュニティを活用し、被災者の安否確認や避難所での声かけを行いましょう。



### 共同作業のポイント

- 個人の能力・才能・特技を生かしましょう。
- 一つの活動(作業)において、性別が偏らず、男女がともに活躍できるようにしましょう。
- みんなが公平に作業を行えるようローテーションを組みましょう。
- 日中、夜間、休日等いろいろな時間帯に対応できるようにしましょう。

